



故 小野寺昭一先生

## 小野寺昭一先生のご経歴

---

### 【学歴・職歴】

昭和 47 年 3 月 東京慈恵会医科大学卒業  
 昭和 49 年 4 月 東京慈恵会医科大学泌尿器科学教室助手  
 昭和 52 年 7 月 群馬大学医学部微生物学教室へ国内留学  
 昭和 53 年 6 月 東京慈恵会医科大学復帰  
 昭和 55 年 6 月 医学博士の学位受領  
 昭和 56 年 6 月 東京慈恵会医科大学泌尿器科講師  
 昭和 60 年 7 月 神奈川県立厚木病院泌尿器科医長  
 昭和 63 年 1 月 東京慈恵会医科大学復帰  
 平成 3 年 5 月 東京慈恵会医科大学附属青戸病院泌尿器科助教授  
 平成 12 年 6 月 東京慈恵会医科大学泌尿器科教授  
 平成 13 年 4 月 東京慈恵会医科大学附属病院感染制御部診療部長  
 平成 17 年 8 月 東京慈恵会医科大学感染制御科教授  
 平成 22 年 7 月 富士市立中央病院院長  
 東京慈恵会医科大学客員教授  
 平成 29 年 4 月 湖山リハビリテーション病院名誉院長  
 平成 31 年 11 月 医療法人社団藤友五幸会理事長

### 【役職など】

日本性感染症学会 理事長・代議員・認定医  
 日本環境感染学会 理事・評議員  
 日本感染症学会 理事・評議員  
 日本化学療法学会 幹事・評議員  
 日本泌尿器科学会 評議員・専門医  
 インфекションコントロールドクター  
 日本医師会認定産業医  
 厚生科学審議会委員（感染症分科会員）：平成 17 年 1 月～平成 27 年 10 月  
 エイズ対策研究事業評価委員会委員；平成 26 年 2 月～平成 28 年 1 月

### 【学会での経歴（日本化学療法学会）】

本学会入会日 1976 年 6 月 1 日  
 評議員 1990 年 3 月 29 日～  
 幹事 1993 年 6 月～2006 年 5 月  
 東日本合同学会 2005 年 10 月（第 54 回日本感染症学会東日本地方会会長）

### 委員会活動歴

和文誌編集委員 1988 年～1990 年，1991 年 6 月～1997 年 6 月  
 JIC 編集委員 1997 年 6 月～2005 年 5 月  
 抗菌薬臨床評価検討委員会 1990 年  
 抗菌薬臨床評価法制定委員会 泌尿器系委員会 1993 年～2000 年  
 抗菌薬治験指導者検討委員会 1995 年～1997 年

臨床試験委員会：

開発相談 2000年，プロトコール作成委員会 2000年，同意文書作成 2002年

特殊病態下感染症における抗菌薬治験の手引き作成委員会 2002年

臨床試験審査準備委員会 2003年

抗菌薬感受性測定・臨床評価委員会 泌尿器系 2000年

再評価指定情報収集請負事業 泌尿器系委員会（厚生省）2000年

抗菌薬臨床試験指導者制度委員会 教育担当 2003年

#### 【その他】

第13回尿路感染症研究会会長（平成14年10月）

第54回日本感染症学会東日本地方会会長（平成17年10月）

第20回日本性感染症学会総会会長（平成19年12月）

第25回日本環境感染症学会総会会長（平成22年2月）

第85回日本感染症学会総会会長（平成23年4月）

- ・厚生労働科学研究費補助金 平成15年度～平成17年度  
「性感染症の効果的な蔓延防止に関する研究」班，研究代表者
- ・同科学研究費補助金 平成18年度～平成20年度  
「性感染症に関する特定感染症予防指針の推進に関する研究」班，研究代表者
- ・同科学研究費補助金 平成21年度～平成23年度  
「性感染症に関する予防・治療の体系化に関する研究」班，研究代表者

## 小野寺昭一先生を偲んで

小野寺昭一先生におかれましては、2023年5月6日に胃癌によりご逝去されました。1946年生まれの先生は、1972年に東京慈恵会医科大学を卒業され、泌尿器科医として研鑽を積み、泌尿器科診療・教育、感染症の研究・教育においては、後進の育成に力を注がれ、さらには、感染対策においては、院内感染の防止に尽力されました。

先生は、長年多くの学会で指導的な役割を果たされました。優れたリーダーシップと洞察力を持ち、数十年にわたって、学会の発展に力を尽くされ、学会の活性化に貢献されました。先生の指導の下、多くの学会員が成長し、成功を収めることができました。特に日本性感染症学会では理事長として、日本感染症学会、日本化学療法学会、日本環境感染学会では、理事・幹事として学会を牽引してこられました。先生が会長をされた2009年の新型インフルエンザパンデミックの直後の第25回日本環境感染学会総会・学術集会、2011年の東日本大震災の直後の第85回日本感染症学会総会・学術講演会は、開催が危ぶまれましたが、先生のご英断にて、開催でき多くの会員から開催できたことについて称賛を頂きました。

大学内では新設された感染制御科の教授として、病院内の感染対策委員会の委員長として、感染対策に従事されました。泌尿器科出身の先生が、感染症診療、感染対策を行うことは、ご苦勞も多かったことと推察いたします。しかし、先生の指導力により東京慈恵会医科大学の感染制御科における感染症診療および研究は軌道に乗り、多くの医局員を生み出した源となりました。先生が感染症診療・感染対策の教授を務め、活躍されたことが基盤となり、その後多くの大学で外科系の医師が感染症診療・感染対策の教授に就任しております。

社会的な活動として、厚生科学審議会委員（感染症分科会員）を長年され、また性感染症への対策に取り組み、  
「性感染症の効果的な蔓延防止に関する研究」班、「性感染症に関する特定感染症予防指針の推進に関する研究」班、「性感染症に関する予防・治療の体系化に関する研究」班の代表者として取り組まれて、多くの成果を挙げられました。

2010年には、富士市立中央病院の院長に就任され、その後はお会いする機会が減ってしまいましたが、学会等でお会いするたびに、いつも笑顔で声をかけてくださり、感染制御科のことを気にかけて頂き、相談に乗って頂きました。2022年6月の第37回日本環境感染学会総会・学術集会にて、先生は名誉会員となられ、名誉会員証を、当時理事長であった私よりお渡しできたことは、私としても喜ばしいことであるとともに、先生に喜んで頂いたことを記憶しております。先生の姿勢や活動は、私たちにとっての模範となり、功績は決して忘れ去ることはありません。心から感謝と敬意を捧げます。先生のご冥福をこころよりお祈り申し上げます。

東京慈恵会医科大学感染制御科 吉田正樹